

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>理念を目に触れる所に複数掲げている。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>理念は頭にあっても、実践に向けての取り組みは不足している。</p>	○	今以上に話し合う機会を持つ必要がある。実践に向けての手段の検討を行っていく。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p> <p>家族への説明は、家族会や日々の訪問時に行っているが、地域に向けては不十分である。</p>	○	地域に向けてのアプローチの仕方をどのようにしていくか検討していきたい。イベントの開催時には事前にアピール、参加して頂く。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>挨拶であったり、買い物に出掛けたり、飲食店を活用したりしているが、近隣の方の訪問はほとんどない。見学受け入れ態勢は随時行っている。</p>	○	ホーム内の様子がある程度外に向けてアピールする。入り易い雰囲気演出(外回りなど)が必要である。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>町内会の集いへの参加や食事会、イベント等にもお誘いしているが、回数は少ない。</p>	○	積極的なアピールに努めるとともに、近隣の学校、幼稚園などとの関わりも今後検討してみる。
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>認知症相談窓口の案内板を玄関に設置しているが、成果としてはまだない状態である。</p>	○	地域貢献できる事についての説明、話し合いの場を設けてみる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	スタッフ全員で自己評価を記入して頂き、現場からの声を拾う機会となっているが、行う事への意義・理解の認識には個人差がある。	○	問題点についてリストアップし、スタッフに向けての開示と答えを明示したりする。改善方法を全員で検討、話し合うように努める。
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	他のユニット状態を報告し合い、意見交換等行い、サービス向上に努めている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の担当者に事故報告書などについて、相談や指導を受けている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	利用者の現状において、より知識習得と活用の必要性が高まっているが、現状は支援不足である。	○	知識習得に努め、市役所等にも相談して、必要な利用者への支援を行っていく。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	職員全員で努めている。ただ、良かれと思っていてもそれが精神的な虐待になっていないか、常に意識して話し合っている必要性は感じている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	時間を取り、きちんと書面と併せた説明を行っている。不明点・疑問点は都度理解を得られる様話し合いをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々の中での不満や要望に耳を傾けている。月一回のミーティングや日々の申し送り等で話し合っているが、一人一人の思いは異なり、十分満足を頂けるには至っていない。	○	個人の意見を汲み取り、可能な限り希望に沿える様な、体制面・スケジュールの創意工夫、見直しが必要である。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	月一回のお手紙郵送や、往診・受診の後には状況をご家族にお伝えしている。金銭面では小遣い帳の確認をお願いしている。職員の変更については、説明報告する場合は特に設けていない。	○	遠方のご家族に対しては、明細を請求書郵送の時に同封し報告する。スタッフ変更に伴うご家族の不安感を持たれない様、報告する場を定例とする。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	直接こちらから伺う体制を心掛けている他、ご意見箱の設置を行っている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の中、ミーティング内において、声を拾う様努めているが、上がってこない声や提案を十分に出来ていない(出来ない)現状がある。	○	聞き取り強化及び、運営者への上申を必要な事項に関しては、引き続き職員の声として上げ続ける。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務調整は職員協力しあってスケジュール変更を行っている。ただ人員不足は否めず、欠勤者が出た時、スタッフに負担をかけた、利用者には不便を来す事も少なからずある。	○	人員増と個人の能力のレベルアップをはかる。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動に関しては、利用者よりも体制重視の考え方に傾いている。離職者などによる入れ替えで、利用者への配慮は十分とは言えない。	○	人事、新規スタッフの配属先など、十分な話し合いを行って決める必要あり。利用者の立場に立った人事に努める必要あり。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修の機会はあるが、その回数は少ない。その反対に参加希望者がいない現実もある。また、参加したくてもシフトの事情で参加できない事もある。育成計画、新規職員へのその後のフォロー研修の場がない。	○	積極的な研修の場の提供、参加の呼びかけ強化。スーパーバイザーを立て、ホーム内での新旧職員のフォロー研修を開催していきたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム協議会に参加しているが、なかなか他の同業者と交流する場は提供できていない。	○	他の同業者の状況の情報収集を行い、交流の機会を設定できるように努める。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	一部のストレスの声は聞いているものの、考え方の相違等でストレスが軽減されにくい現状である。	○	それぞれの立場の者がそれぞれの声に耳を傾け、何が問題で、何を先に解決していかなければならないのか、話し合う必要があると思う。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	それぞれの立場で考え方のズレがある。向上心をもって働くには色んな意味で見直しが必要である。	○	現場の状況、声をもっと見て、耳を傾ける姿勢に努める。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	本人の思いに耳を傾けると共に、事前の情報にて入りやすい環境、雰囲気作りに努めている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	まずは、ご家族からのお話を受身で聞き取り、話し易い様に努めている。こちらから声をかけ、話すきっかけ作りにも配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ホーム内では対処しきれない不安な部分に関しては、主治医に相談、アドバイス頂き、支援に役立てている。	○	外部にも目を向け、ホーム内で出来ない支援に関して、検討、対応していきたい。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご家族や、友人・知人が来訪し易い環境・雰囲気作りに努め、馴染みの関係の継続に配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	不安・不満の訴えに寄り添い、時間の許す範囲内ではあるが耳を傾ける様努めている。出来ることへの取り組みを声掛け、行って頂いている。	○	本人の得意分野での活躍の場を増やしていく事が必要。また、利用者個人個人で見えていくようにしていく。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族が来やすいホームの雰囲気作り、対応を行えている。	○	本人が家族との距離を感じ、関係に不安を感じない様、また、気軽に連絡が取り合える様、家族にも理解・協力して頂いて支えていく。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族が来やすいホームの雰囲気作り、対応を行えている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人、知人が来訪し易い歓迎ムードを意識したり、要望に応じ馴染みの美容院へ同行援助している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の協力、助け合いの関係作りが見えてきているものの、1、2人の方への中傷等を招いてしまっている現状もある。	○	少し距離をおけるスペースの工夫や、一部の方へ視線が集中しないよう、スタッフが調整役になれる様、交わりのゆとりを持てるようにしていく。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去後の関係は今の所あまり継続されていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	この方にはこうあれば…との認識、思いの把握はある程度もってきているが、その中で出来る事は一部だけである。	○	明確で実現可能な案を本人本位の姿勢で、日常の中、ミーティングにおいて検討していく。
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	職員各々が日々の会話の中でこれまでの生活歴を耳にしているが、プラン作成にはそれらを十分には生かされていない面あり。	○	利用者の生活歴の整理を行い、スタッフ全員が個人の生活歴、暮らしぶりを把握できるようにしていく。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	スタッフ各人の見方での個人的な把握に留まっている。	○	断片的視覚の傾向があるので、一日の流れ、客観的な見方での把握をチームで行ってみる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	計画作成者が主体で計画を作成している。本人、家族にも意見を伺ったの作成に取り組んできている。	○	本人の思いをもっと重視するとともに、職員全員の意見を取り入れ、作成後もミーティング時において見直し、改正を適切に行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	見直しが必要になっても迅速な計画改正ができていない。現場主体に動いてしまっている所が多い。	○	職員、家族とも話し合い、計画書の見直し、現状に見合ったプラン作りにも努める。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	スタッフ全員に知ってもらいたい事などはフロア日誌を活用し、周知している。しかし、利用者個人別ではない為、後日確認を要する時にはチェックしづらい流れとなっている。(記憶頼みのところがある)	○	利用者、個人別帳を設置し、読み返せたり、新職員等にも利用者の情報として分かり易いものにしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご家族の事情を理解し、できる限り通院、送迎にも柔軟に対応。定期的な往診体制にて、通院負担の軽減や重症化の回避に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの方に来て頂いて、色々なイベントを行い、利用者楽しんで頂いている。	○	不定期、回数はまだ少ないので、ボランティア窓口を広げられる様、違う機関の協力を得る努力を行う。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	一ヶ月に一回の出張理美容を希望者に利用して頂いている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	困難事例について、介護保険課に相談しているが、地域包括支援センターとの協働を行っていない。	○	成年後見制度が必要と思われる利用者に地域包括支援センターと協力して、利用できるように支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者やご家族の希望しているかかりつけ医になっている。内科医に色々と相談し、より良い関係作りに努め、状態悪化時にもアドバイス頂いたり、他の医療機関へのパイプ役になって頂いている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の相談医である三ツ山病院等に認知症に関する相談、アドバイス頂いている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ちょっとした変化、問題点などについては電話やFAXにて状況報告、相談を行っている。時には主治医の指示も頂いている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	退院後の経過についても電話にて報告、相談アドバイス頂いている。入院中もコンスタントに面会に行き、ご家族への協力、支援に努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	本人、ご家族とかかりつけ医の間に入り、話し合いを行ったり、連絡係になったりと、ターミナルケアについての意見交換に努めている。また、ターミナルケアの同意書も作成している。	○	同意書にはまだサインは頂いていないが、今後とも状態の変化に応じたアプローチを行っていく。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	容態急変時はかかりつけ医にいつでも電話、対応して頂ける様、話し合い、連携も出来ている。	○	本当の終末期に入った場合の対処方法について、また訪問看護導入の時期についても、引き続きの情報提供に努め、迅速に対処していく。また、職員へのフォローにも配慮が必要である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>家族との話し合いを十分に行い、本人・家族がダメージを極力防げる様努めている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>自尊心を傷付けない、利用者に応じた配慮ある言葉掛けに努めている。</p>	○	<p>ミーティング時、お互いの注意点を話し合ったり、日常生活の中で気付いた点はお互い声を掛け合い、利用者のプライバシー、誇りを損ねないようにする。</p>
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者に応じた問い掛け方を意識し、即答が困難な方へもゆっくり考えて頂ける様、待つ姿勢での対応を心掛けている。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>職員側の事情で左右されてしまう傾向あるものの、中でもできる限り時間を作って希望に少しでも添える事が出来る様、工夫・支援している。</p>	○	<p>日常作業の見直し、利用者を巻き込んで掃除なども行い、ゆったりと利用者と共に過ごせる時間の拡大に努める。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>一緒に服を選んだり、季節に合わせた洋服選びを支援している。また、行き付けの美容院への支援や、月一回の訪問理美容も利用して頂いている。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>少しずつ増えてきているが、作業の効率化を優先させてしまう傾向があり、利用者の活躍の場の提供が不十分である。</p>	○	<p>全員で行う事には利用者の得意不得意があるので無理であるが、得意な方への生き甲斐の場として、職員全員が配慮、支援していく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の嗜好品を理解しており、食べられない食材などは違うものに替える等配慮しているほか、各人の状態に応じ、食べ易い形状にして提供している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	失禁が増えたからといって、パット使用を勧めたりしない様になっている。下着汚染された方にもさり気なく声掛けし、お預かりしたり、居室に洗濯物を入れる容器を置いている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	日時に関してはスタッフの都合で決めてしまっている。順番についてはご希望に応じようとしている他、受診等の都合で入浴希望があった場合は、その都度調整を行っている。	○	できるだけご希望に添える様、努めていきたい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	昼夜逆転にならないよう、日中の居眠り、入床時間を減らすよう、運動やレクリエーション、漢字ドリルなどへの参加の声掛け、支援に努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	役割、楽しみ事は各自違いがあり、それぞれの力を活かせる支援に着手中であるが、まだまだ問題が山積みであるのが現実である。	○	より個人のニーズに沿った支援が可能になるよう、工夫し、役割意識を持って頂けるような支援を行っていく。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	それぞれの状況、希望に応じ、ご家族とも話し合った上で、手元に5千円以内のお金を管理して頂いている。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	可能な限りで外出も支援している。(散歩、買い物、ドライブ、美容院など)	○	外出希望に個人差があり、訴える事のない(出来ない)方にも外出を楽しんで頂ける様、配慮、声掛けが必要である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	温泉一泊旅行、お花見、昼食で外に出掛けたりと外出の支援を行っている。	○	今まで以上に色々な所に出掛けられる様、希望を聞いたり、計画を立て、楽しみを支援していきたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	利用者が希望する時に電話を使って頂いている。また、年賀状作成の支援も行っている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族、友人等の訪問多く、お茶を出したり、居室でゆっくり過ごして頂ける様配慮している。笑顔での挨拶、言葉掛けを意識している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束のないケアに取り組んでいる。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中においては玄関の施錠は行っていない。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者のプライバシーに配慮しながら入室の声掛け、夜間は2時間おきの見回りにて様子の確認を行っている。同じ空間の中で台所作業、書類の作成をしながら見守りを行っている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	居室内においては、利用者それぞれの状態に応じた保管管理を見守っている。また、洗剤等の物品に関しては目に触れないように保管場所を工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故報告書、ヒヤリハットや日々の日誌・日報にてスタッフ全員が目を通し、注意を呼び掛けるとともに、ミーティング時にも話し合いをして、予防に努めている。消防訓練、研修会にも参加している。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルはあるが、勉強会を一回行ったのみ。	○	スタッフの不安感を軽減させる為にも、定期的な実技勉強会の場を設定する。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練実施回数は少なく、また、地域の人を巻き込んでの訓練は行えていない。	○	地域の方の協力は得ているので、スケジュールを立て、実施していきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	その都度、リスクについてご家族へ説明し、対応策についてご意見頂いたり、対応策を検討している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々の見守りの中で、体調の変化や異変の早期発見に努め、申し送り、日誌等にてスタッフへの情報共有・対応に努めている。場合によって、医療機関への連絡、相談を行っている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	100%ではないが、ある程度の認識を持ち、必要に応じ保管している処方箋で確認、症状変化の状況判断に努めている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	利用者それぞれの体質、状態に応じた下剤の調整を主治医と相談している。また、水分摂取や運動の声掛け、実施の他、乳酸飲料など薬だけに頼りすぎない様な工夫も行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	一日2回の口腔ケアの声掛け支援を行っているが、拒否される方もいる。義歯の方にはほぼ毎晩預かり、洗浄剤を使用した洗浄を行っている。	○	拒否される方への押し付け過ぎない声掛け強化と、ご自分の歯の状態確認も定期的に行っていく。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分摂取量のチェックを行っている。カロリー量の調整が必要な方には盛り付けの中で工夫を行い調整している。水分量が不足気味の方には、好みのものを用意したり、ゼリーにしたりと摂取量確保に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルの作成と、毎日の掃除・除菌作業を徹底、予防・対策に努めている。利用者、職員ともにインフルエンザ予防接種を受けている他、ペーパータオル、殺菌作用のある洗浄液を使用した手洗いを支援している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所、調理器具の消毒を毎日行っている。一週間に1度、冷蔵庫内の掃除を行い、食材の日付を確認し、使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関には花、絵を飾っているが、玄関ホールは日差しの関係で少し暗いイメージがある。外回りは立地条件的なこともあるが、殺風景である。	○	玄関正面の下駄箱にも何か装飾品を飾ったり、明るい雰囲気作りの工夫を行ってみる。外回りの清掃強化を造花でもいいので緑ものやベンチの設置についても工夫、明るいイメージにしてみる。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を感じて頂ける様、季節の花や歳時物の飾り付けにも配慮している。	○	廊下など殺風景な部分もあるので、手作りものなど追加で設置する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間は狭く、1人になれるスペースはほとんどない。ゆったりできるスペースが不足している。	○	備品の設置やテーブル等の配置替えを検討し、少しでも一人の空間でゆったり、リラックス感を味わえるスペースの確保に努める。廊下などのスペースも活用を検討、空間の工夫を考えてみる。
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今までの生活で使い慣れた仏壇などの調度品を居室に持ち込まれている。利用者の状態に応じ、家族の理解を得ながら、配置替えなどの工夫を行っている。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	お声掛け、了承を得ながら、窓を開け換気を行っている。また、居室にポータブルトイレを置かれている方には、特に換気に注意している他、消臭やトイレの洗浄にも配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	各所に手摺が設置され、バリアフリーになっている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレ表示の設置や、居室前にも表札の他、思い出の品を入れられるような工夫がされている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の周りは歩きづらい状況の為、1階ホールから見える様にプランターなど花や、野菜などを植え、楽しんで頂ける様にしている。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある <input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています <input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ○③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ○②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ○②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ○②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ○②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)